

[資料]

ドイツ連邦共和国バーデン・ヴュルテムベルク州【国語科学習指導要領】(2)
ハウプトシューレ編

土山 和久

*原典資料：

『バーデン・ヴュルテムベルク州文部省 1994 年度官報』／「文化事業と教育」
文書番号 C：【学習指導要領】巻 2 「ハウプトシューレ学習指導要領」
（“Kultus und Unterricht”；Amtsblatt des Ministeriums für Kultus und Sport Baden-
Württemberg, Ausgabe C: Lehrplanheft: 2/1994 Bildungsplan für die Hauptschule）

*凡 例

1. 本 [資料] は、前掲資料から、ハウプトシューレ国語科（＝ドイツ語科；以下、国語科）カリキュラムに該当する個所を抽出・再編成したものである。なお、同州のハウプトシューレの教育年限は第 5～9 学年の 5 カ年であるが、「中級修了」を獲得するために追加的に第 10 学年が設定されている。本 [資料] は同学年のカリキュラムも併せて編成した。
2. 各学年のカリキュラム提示の仕方は、その各学習領域に対して次のようになっている。

目 標

学習活動内容	指導上の留意点
--------	---------

3. 本 [資料] 中で用いられている記号とその内容は、以下の通りである。

<div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 15px; display: inline-block;"></div>	とりわけ重要な箇所
< >	年間配当時間
⇒	教科交差的テーマ*1 との関わり
→	他教科との直接的な関わり

4. 各学年の国語科カリキュラムが参照を指示している、「読み物リスト」および「教科交差的テーマ」は、「参考資料」として巻末に付した。

*1 Fächerverbindende Themen：従来の教科の枠では取り扱うことのできない、より大きな教育・社会の問題に関して、教科の枠を超えてテーマに関連する諸教科が協力的に交差する総合学習の構想。

1. 国語科の課題と目標

ハウプトシューレの国語科教育は、生徒たちの創造的な諸力と情意的な諸力を鼓舞し、彼らの口頭および文字による表現能力を促進し、彼らに意識的かつ責任感のある言語との交わりを手ほどきし、文学的テキストや他のテキストと格闘する能力、それらのテキストから情報を取り出す能力、それをテキスト理解に導く能力を彼らに身につけさせる課題を有している。

本教科は、事態 (Sachverhalt) や問題、状況と格闘するための基本的な能力・技能を生徒たちに仲介し、コミュニケーション能力、行為能力および判断力を拡充・深化し、人格形成に寄与し、社会的行動や寛容へ導き、自己同定および自己画定を可能にするものである。具体的な言語行為状況、舞台風の形成と演技の中で、現実の分化的認知や、現実を秩序づけ、説明し、評価する能力の発達がますます鍛錬・練習されるのである。

様々な文化やエポックの文学作品と出会い、それらと格闘することは、想像力を刺激し、感受性や表象力を促進する。つまり文学作品との出会いや格闘は、言語を分化された、多様な、技巧に富む形成・表現手段として経験可能なものにするのである。また、それぞれの歴史的、社会的、文化的諸条件に基づいた言語の派生は、自身の世界—現実経験と他の人間のそれとを比較することを可能にし、独自の創造的形成が開拓される。

本教科の教育—陶冶任務は、3つの学習領域“話すこと、書くこと、演技すること”、“文学と他のテキスト”、“言語考察と文法”が互いに結び合わせられるようにして、とりわけ全体的で行為志向的 (handlungsorientiert) な学習の仕方が実地に適応されるときに、実現されるのである。

全体的なモノの見方、そして、国語科教育を生徒の学力—能力に向けて方向づけることが純正な教科の体系性の上位を占める。生徒の生活領域や学校の学習対象に対する言語の多様な関係によって、国語科という教科は、諸教科を結合させる思考を鍛錬し、育成するのにとりわけ相応しい教科であるし、また、そのことが要求されている。

このことに相応して、国語科教育は、必要な基本的知識や技能を深め、確かなものとすることに特別な価値を置いている。そのためには、とりわけ多様な練習の形式が不可欠である。

作家およびテキストの選択は、「読み物リスト」の中に含まれている。学習領域“文学と他のテキスト”に用いられる任意の授業時間の少なくとも半分は、「読み物リスト」に掲げられている作家ないしはテキストのために費やされる。また、ゲーテとシラーが考慮に入れられなければならない。

国語科教育の教育—陶冶任務は以下の通りである。

- 読み書きの能力の促進,
- 規範に即して書くことの練習と定着,
- 標準語での表現力の促進, その際, 方言はその固有性の点で承認され続ける,
- 口頭および文字による表現—意志疎通形式の手ほどきと練習,
- 創造的形成の発展と促進,
- 有意義な自由時間形成とも関連して, 発見的な読みに際しての喜びの覚醒,
- 文学入門, 文学的芸術作品を理解する能力を付与, 文学的陶冶の仲介, その際, 郷土の文芸や古典文学を適切に顧慮,
- 詩の暗唱と朗読,
- 母語の表現形式の多様性を仲介,
- 言語の機能と体系に対する理解力の発展,
- 現実を秩序立てて捉え, 説明し, 評価する能力の発展,
- 尊重の教育, 独自の表象・考えを—他者の立場を尊重しながら—主張する能力の育成。

2. 各学年の国語科カリキュラム

2. 1. 第5学年

学習領域1：話すこと、書くこと、演技すること (75時間)

生徒たちは、独自の体験や想像、絵・写真、お手本に従って、物語（お話）を形成する。また、具体的な状況の中で、事実を則して、相手に関連づけながら自らを表現し、演技練習や発表演技の中で、体験や思想、感情を創造的かつ個別的に転換する。これらによって、創造的な諸力が刺激を受け、表象力や表現力が拡張されるのである。

正書法は目的をもって、多様なやり方で練習される。授業は、主として、間違えやすい点に向けられるが、その際、それぞれの正書法現象を体系的にも取り扱わなければならない。生徒たちは、繰り返して応用することによって、新しく獲得した語彙を書くことを確かなものとし、そうして、彼らの正書法の知識や技能を強固にし、拡張するのである。

また、生徒たちは、情報を入手・収集・整理する技術に出会い、文字および口頭による表現活動の中でそれを応用することを学ぶ。

学習活動内容	指導上の留意点
口頭および文字で語る	<p>単純な物語の構造と言語手段。 語場練習。 時間の意味。 テクストの内容を再現。</p>
体験を語る	<p>生徒の経験領域から取り出したテーマ： 家族，学校，自由時間。 → 【地理科，単元1：地球上の方位】 → 【生物科，単元1： その生活空間における哺乳類】 道路交通の中での態度。</p>
[空想物語]	<p>[手本：テーマ，刺激語の連鎖，話したり 書いたりを刺激する挿し絵]</p>
[規定のテキストの拡張]	
[自由に書く]	<p>[自分で選んだテーマで。 絵や写真，ポスター，テキスト，体験に よる示唆。 自由な形成の形式。 採点はしない]</p>
他者との言語的交わり	<p>⇒ 1 ⇒ 2</p>
事実に関連づけて話す	<p>文法的に正しく話す。</p>
相手に関連づけて話す	<p>完全な文の形で話す。 日常会話。 単純な修辞手段。 日常語。 あいさつする，話しかける，謝る。 生徒の周囲のテーマ。</p>
お互いに礼儀正しく交流する 願望，依頼	
[カード]	<p>[休暇の挨拶，クリスマスカード，祝賀， 特別な機会のカード] → 【造形科，学習領域2：版画】</p>
[招待状]	<p>[誕生日の祝い，パーティー，祝宴への招 待状] → 【造形科，学習領域2：版画】</p>
提案や要求，経験，意見を言葉 に表し，理由づける	<p>交流の規則，相手の顧慮。 即興劇，お店ごっこ。</p>
情報の入手と引き渡し	<p>問う，答える，伝える，調べる。 → 【地理科，単元6： 世界のアクチュアルな出来事】 電話での会話。案内や情報を入手し，演技 の形でも応用する。</p>
演技練習と演技 パントマイムによる演技	<p>⇒ 1 独自の体験や，テキスト，絵物語，映画の 状況に結びつける。</p>

[即興演技]
[舞台風の演技]

正書法：
正書法の一つひとつの現象を体系的に取り扱う

名詞の大文字書き

形容詞の小文字書き

母音の長音化

破裂音

s音

列挙の際のコンマ

直接話法の際の句読法

書くきっかけから出発するよう
な、誤りの分析や目標を設定した
練習

学習の技術、練習形式、解決の補
助手段

正確な書写と筆記

辞書の利用

ディクテーションに従ったテキス
ト(120語)

文字および口頭での論述に対す
る学習技術

見出し語カード、メモ

→ 【英語科, テキスト】
→ 【音楽科, 学習領域2:
音楽とプログラム】

冠詞の見本, 複数形形成は見本として。

比較変化は見本として。

長母音や短母音の発音に対する音響運動的
練習。

語基, 語親族。

正書法と文法の結びつけ。

クラスの中で見られる個別的な誤りを確認
する。

それぞれの正書法現象を重点に応じて授業
単元の中で取り扱う。

類似阻害に注意!

語彙の拡張と定着, 概念解明, 語彙リスト,
語基, 学習カードファイル, メモ帳。

新しく獲得した語彙に向けられた学習。

語の延長と派生。

自立的で個別的な練習(自由学習)。

発音練習(聞くこと, 話すこと)。

短い練習ディクテーション, 駆け足ディク
テーション, 分配ディクテーション。

変化に富んだ書写練習(黒板に書かれたテ
キスト, 本の中のテキスト)。

→ 地理科, 生物/化学科

読みやすい文字のイメージと適切な形成。

筆記運動の鍛錬。

辞書利用の手ほどき。

アルファベット順。

複合語の基礎語の際の語形式の発見。

調べる練習(中心語, 迅速さ)。

授業で用いたテキストや語。

→ 地理科, 生物/化学科

⇒ 1 テキストの箇所や答えをメモしたり, 観察
したことを書き留めたりする。

学習領域 2 : 文学と他のテキスト (40 時間)

様々なテキストの種類を読むを通して、他者のそして未知の生活世界が生徒たちに出くわす。彼らは、その時どきに呈示された生活現実と対置することによって独自の生活現実を理解し、また、様々な種類の文学的テキストに特別な美的表出の仕方に出会うのである。テキスト解明は、優先的に行為—生産志向的に行われる。それによって文学に対する関心が覚醒され、促される。

生徒たちは多様な練習を通して自身の読みの能力を高め、朗読における確かさを益々獲得する。また彼らは情報入手の技術を鍛錬し、意味を明らかにする読みや、意味に即した読みを学ぶ。

散文テキスト

詩

青年文学
簡単な専門的テキスト

この学習領域に対する任意の時間の少なくとも半分は、読み物リストに揚げられた文学のために用いられる。1年間に、最低1冊の青年文学が読まれるべきである。

メルヘン、寓話、伝説、物語、

叙情詩、物語詩。

テキストでの学習
テキストの解明

内容上の問題

内容と形式の単純な関係

読解力の練習

詩の暗唱

第一印象、テキストに対して問いを立てる、自分の言葉で語り直す、情報入手の技術。

登場人物の特徴、行為の動機、行動の仕方、生活環境、心的葛藤。

筋の構造と展開。
語の選択、文構造、言葉のイメージ。

明晰な発音で、意味に即して、流暢に読む。
標準発音への慎重な接近。

テキストの自由発表。
テープレコーダーを用いた作業。

朗読の時間。
朗読競争。

学習領域 3 : 言語考察と文法 (15 時間)

生徒たちは、様々な文法上の形式を区別することを学び、言語を応用する際にその機能を認識し、学んだものを新たな言語連関の中で使用する。それによって彼らは、言語の合法則性に対する洞察を獲得するのである。

また、語論や統語論、意味論の中で、彼らは新しい言語手段に出会い、それによって、自身の受容力や口頭および文字による表現可能性を広げるのである。

<p>統語論 文の成分： 主語，述語 与格および目的格での目的語</p> <p>句読法： 文末記号</p> <p>列挙の際のコンマ</p> <p>直接話法の際の文記号</p> <p>品詞 名詞と冠詞</p> <p>動詞： 不定詞と活用</p> <p>現在形，過去形，完了形 助動詞</p> <p>代名詞： 人称代名詞 所有代名詞</p> <p>形容詞： 語形変化と比較変化 基本形，比較級，最上級</p> <p>意味論（語義論） 語親族，語場</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>生徒が書いたテキスト，他のテキスト，話された言葉から出発して，文法現象を取り上げ，考察し，消化する。 文法と正書法の結び合わせ。</p> </div> <p>明確化と強調に対するその機能。</p> <p>文の種類。</p> <p>性，単／複数，格。</p> <p>haben, sein, werden.</p>
-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2. 2. 第6学年

学習領域1：話すこと、書くこと、演技すること 〈75時間〉

生徒たちは、独自の体験や、絵・写真、お手本に従って、物語（お話）を形成する。また、話したり書いたりする状況の中で、事実に即して、相手に関連づけながら自らを表現し、正確に観察すること、分化的に認知すること、様々な観察方法を応用することを学ぶ。そうして彼らは、単純な事象や事態を、目的に応じて、わかりやすく、言語で適切に述べるようになるのである。

また、演技練習や舞台風の形成の中で、彼らは体験や思想、感情、お手本を創造的かつ個別的に転換し、それによって形成的な諸力が刺激を受け、表象力や表現力が拡張される。

正書法は目的をもって、多様なやり方で練習される。授業は、主として、間違えやすい点に向けられるが、その際、それぞれの正書法現象を体系的にも取り扱わなければならない。生徒は、繰り返して応用することによって、新しく獲得した語彙を書くことを確かなものとし、彼らの正書法の知識や技能を強固にし、拡張するのである。

さらに彼らは、様々な情報源から情報を入手・収集・整理する技術を習得し、口頭あるいは文字による論述の中でそれらを活用する。

学習活動内容	指導上の留意点
口頭および文字で語ったり、説明したりする 語る	⇒ 3 生徒の経験領域から取り出したテーマ。
体験	気分の再現、行為の動機の論述。
テキストあるいはテキストの部分、絵・写真、習慣から出発して書く	⇒ 3 書くきっかけとしてのテキスト（テキストを記述し、変更し、拡張する）。
説明する： 事象の説明 道順の説明 [対象の説明] [工作やゲームの手引き書]	事象と活動。 通学路、学習の手順、市街地図に基づいた道順の説明（主に口頭や演技で）。 [絵・写真、探索願] [自分で組み立てた対象、自分で構想したゲーム] → 英語科、テキスト
別の視点から語ったり、説明したりする	⇒ 3 同一の事態を異なる視点から述べる。 聞き手あるいは読者を考慮に入れる。

[自由に書く]	[自分で選んだテーマで。 絵や写真，ポスター，テキスト，体験による示唆。 自由な形成の形式。 採点はしない]
他者との言語的交わり ⇒ 4 事実や相手に関連づけて話したり書いたりする：	
手紙	日常からのきっかけ。 願望，依頼，招待。 外見上の形式と形成。
提案や要求，経験，意見を言葉に表し，理由づける	お店ごっこ（説得することと納得させることを区別する）。 論争形式の話し合い，演技練習。
お互いに耳を傾け合う	傾聴する。最後まで発言させる。他者の発言を取り上げ，その先に続ける。 話し合いの規則を設定する。
お互いに礼儀正しく交流する	あいさつする，話しかける，謝る。
[意見] [苦情]	[読者の手紙]
情報の入手と引き渡し	⇒ 3 情報の選択と整理。 ⇒ 4 様々な情報源からの情報。 → 地理科，歴史／社会科，生物／化学科
演技練習と演技 舞台風の演技 [即興劇] [パントマイムによる演技]	⇒ 1 お手本の対話化。 テキストや絵物語，映画の状況に結びつける。
正書法： 正書法の一つひとつの現象を体系的に取り扱う 名詞化された動詞，形容詞， 呼称代名詞の大文字書き	
母音の長音化 破裂音 s音 分綴法 関係文の場合のコンマ [直接話法の際の句読法]	長母音や短母音の発音に対する音響運動的練習。 語基，語親族。 正書法と文法の結びつけ。
書くきっかけから出発するような，誤りの分析や目標を設定した練習	クラスの中で見られる個別的な誤りを確認する。 それぞれの正書法現象を重点に応じて授業

学習の技術，練習形式，解決の補助手段

正確な書写と筆記

テキストを作成したり，誤りを訂正したり，自立的な練習をするための辞書の利用

ディクテーションに従ったテキスト (140 語)

辞典の利用

単元の中で取り扱う。
類似阻害に注意！

語彙の拡張と定着，概念解明，語彙リスト，語基，学習カードファイル，メモ帳。
語の延長と派生。
自立的で個別的な練習 (自由学習)。
発音練習 (聞くこと，話すこと)。
短い練習ディクテーション，駆け足ディクテーション，分配ディクテーション。

変化に富んだ書写練習 (黒板に書かれたテキスト，本の中のテキスト)。
→ 地理科，歴史/社会科，生物/化学科
読みやすい文字のイメージと適切な形成。
筆記運動の鍛錬。

迅速かつ確実に調べる。
(辞書，電話帳，郵便番号帳)
循環練習。
複合語の基礎語の際の語形式の発見。

授業で用いたテキストや語。

学習領域 2 : 文学と他のテキスト (40 時間)

様々なテキストの種類の読書を通して，他者のそして未知の生活世界が生徒たちに出くわす。彼らは，その時どきに呈示された生活現実と対置することによって独自の生活現実を理解し，また，様々な種類の文学的テキストに特別な美的表出の仕方に出会うのである。テキスト解明は，優先的に行為一生産志向的に行われる。それによって文学に対する関心が覚醒され，促される。

生徒たちは多様な練習を通して自身の読みの能力を高め，朗読における確かさを益々獲得する。また彼らは情報入手の技術を鍛錬し，意味を明らかにする読みや，意味に即した読みを学ぶ。

散文テキスト

⇒ 3 メルヘン，寓話，伝説，物語，

詩

叙情詩，物語詩。

青年文学

⇒ 4

専門的テキスト

→ 歴史/社会科，地理科，生物/化学科，
新教・カトリック宗教科

この学習領域に対する任意の時間の少なくとも半分は，読み物

リストに揚げられた文学のために用いられる。1年間に、最低1冊の青年文学が読まれるべきである。

テキストでの学習
テキストの解明

第一印象、テキストに対して問いを立てる、自分の言葉で語り直す、情報入手の技術。

内容上の問題

登場人物の特徴、行為の動機、行動の仕方、生活環境、心的葛藤。

内容と形式の関係

筋の構造と展開。
語の選択、文構造、言葉のイメージ、語りの視点。

読解力の練習

明瞭な発音で、意味に即して、流暢に読む。
表現豊かに読んだり、朗読したりする。
割り当てられた役割で読む。
テープレコーダーを用いた作業。
朗読の時間。

詩の暗唱

学習領域3：言語考察と文法 (15時間)

生徒たちは、様々な文法上の形式を区別することを学び、言語を応用する際にその機能を認識し、学んだものを新たな言語連関の中で使用する。それによって彼らは、言語の合法則性に対する洞察を獲得するのである。

また、語論や統語論、意味論の中で、彼らは新しい言語手段に出会い、それによって、自身の受容力や口頭および文字による表現可能性を広げるのである。

統語論

関係文

文の成分：
目的語

場所、時間、原因、仕方の副詞的規定

文成分の部分としての付加語

生徒が書いたテキスト、他のテキスト、話された言葉から出発して、文法現象を取り上げ、考察し、消化する。
文法と正書法の結び合わせ。

句読法： 関係文の場合のコマ	
品詞 動詞： 過去完了形，未来形	
関係代名詞	
前置詞	
意味論（語義論） 同一，類似，対立の意味を持つ語	ウィット，演技。
[語親族] [語場]	
造語： 合成語 名詞からの派生語	

2. 3. 第7学年

学習領域1：話すこと，書くこと，演技すること 〈70時間〉

生徒たちは意識的に特定のお手本に従って，物語（お話）を形成する。また，事態や事象を説明するようにして，自身の正確な観察と構造化の能力を育成する。そして，話したり書いたりする状況の中で，事実在即して，相手に関連づけながら自らを表現し，役割演技の中で対立解決の可能性を吟味する。

演技練習や舞台風の形成の中で，彼らは体験や思想，感情，お手本を創造的かつ個別的に転換し，それによって形成的な諸力が刺激を受け，表象力や表現力が拡張される。

正書法は目的をもって，多様なやり方で練習される。授業は，主として，間違えやすい点に向けられるが，その際，それぞれの正書法現象を体系的にも取り扱わなければならない。生徒は，繰り返して応用することによって，新しく獲得した語彙を書くことを確かなものとし，彼らの正書法の知識や技能を強固にし，拡張するのである。

さらに彼らは，情報を入手し，述べ，引き渡す技術を練習し，略図や表を使用することを学ぶ。

学習活動内容	指導上の留意点
⇒ 2 口頭および文字で説明する	目標をもって、個々の事物を収集・整理する練習を行う。
対象	遺失物通知と欠損通知。
事象	修理，未加工品の組み立て，理科の実験。
[道順]	[外来者のための当地情報]
[絵画・写真]	[造形芸術，写真，ビラ，ポスター]
語る	意識的に要点を押さえた語り（機知に富んだ，ハラハラドキドキさせる，気味の悪い，信じられない物語）。
[自由に書く]	[自分自身のために書く。 気分や感情を表現する。 体験や造形芸術，音楽，自然による刺激。 日記，手紙。 自由な形成の形式。 採点はしない]
報告	
他者との言語的交わり 事実や相手に関連づけて話したり書いたりする	
独自の見解を運び入れる	主張を提示し，理由づけ，説明を加える。
他者の見解を顧慮する	対立意見を取り上げ，解明し，それを引き受けるか，あるいはそれに反駁する。
非難と反非難を認識する	客観的に解明する，欠点を認める，謝る，弁明する，退ける。
お互いに礼儀正しく交流する	要求と拒否
使用説明書	器具やゲームに対して。 言葉で適切に表現し，実際に十分にテストし，修正する。
⇒ 5 演技練習と様々な演技形式	⇒ 5 現実の状況やテキスト，映画に結びつける。
役割演技	演技の原型の転換。
舞台風の演技	
[パントマイムによる演技]	
[影絵劇]	
[人形劇]	
正書法： 正書法の一つひとつの現象を体系的に取り扱う	

日付の大文字書きと小文字書き
重文／複合文の場合の句読法

書くきっかけから出発するよう
な、誤りの分析や目標を設定した
練習

学習の技術、練習形式、解決の補
助手段

正確な書写と筆記

テキストを作成したり、誤りを
訂正したり、自立的な練習をす
るための辞書の利用

ディクテーションに従ったテキス
ト (150 語)

口頭および文字による論述のため
の作業技術

コンピューターの投入：短いテ
キストを書き、訂正する

略図と表

クラスの中で見られる個別的な誤りを確認
する。
それぞれの正書法現象を重点に応じて授業
單元の中で取り扱う。
類似阻害に注意！

語彙の拡張と定着、概念解明、語彙リスト、
語基、学習カードファイル、メモ帳。
新しく獲得した語彙に向けられた学習。
語の延長と派生。
規則の定式化と応用。
自立的で個別的な学習 (自由学習)
発音練習 (聞くこと、話すこと)
短い練習ディクテーション、駆け足ディク
テーション、分配ディクテーション。

変化に富んだ書写練習 (黒板に書かれたテ
キスト、本の中のテキスト)。
→ 地理科、歴史／社会科、生物／化学科
読みやすい文字のイメージと適切な形成。

辞書、参考書類、専門書。
コンピューター：正書法テスト・プログラ
ム、正書法トレーニング・プログラム。
学習段階、循環練習。

授業で用いたテキストや語。

正書法テスト・プログラム。
正書法トレーニング・プログラム。
→ 【経済理論／情報科、単元3：
コンピューターでの作業；テキスト加
工と表計算入門】

内容を口頭ないしは文字で表現する。

学習領域2：文学と他のテキスト (45時間)

生徒たちは自立的な学習を高めることによって、様々なテキスト種の内容上
の問題と命題を、主に行為－生産的に解明する。彼らはその時どきに呈示され
た生活現実と対置することによって独自の生活現実を理解し、それに対する態
度を決定する。また、様々な文学的テキストに特別な美的表出の仕方に出会い、

他のメディアにおける表出や作用との差異を経験する。それによって、文学に対する関心が促されるが、その際、自由時間形成の手段としての本の意味がとりわけ強調され、学校外の読書経験が、授業に関係づけられる。

生徒たちは多様な練習を通して、朗読や意味に即した読みにおける自身の確かさを高める。

	⇒ 2 ⇒ 3 ⇒ 4
散文テキスト	笑話、暦物語、逸話、物語、ショートストーリー。
詩	
青年文学 〔コミック〕 〔青年雑誌〕	本と自由時間。 〔構造と意味〕
専門的テキスト	→ 歴史科、地理科、生物／化学科、 新教・カトリック宗教科
実用書	様々な関心領域の実用書に出会う。
<p>この学習領域に対する任意の時間の少なくとも半分は、読み物リストに揚げられた文学のために用いられる。1年間に、最低1冊の青年文学ないしは実用書が読まれるべきである。</p>	
テキストでの学習 テキストの解明	第一印象、テキストに対して問いを立てる、比較的長いテキストを矛盾なく再現する、重要な情報をテキストから取り出す。
内容上の問題	登場人物の特徴、行為の動機、行動の仕方、生活環境、心的葛藤。
形式と内容の相応	筋の構造と展開、語の選択、文構造、言葉のイメージ。
読解力の練習	明瞭な発音で、意味を明らかにしながら、流暢に読む。 表現豊かに読んだり、朗読したりする。 割り当てられた役割で読む。 テープレコーダーを用いた作業。 朗読の時間。
詩の暗唱	

学習領域 3 : 言語考察と文法 (15 時間)

生徒たちは、さらなる文法上の形式を区別することを学び、言語を応用する際にその機能を認識し、学んだものを新たな言語連関の中で使用する。それによって彼らは、言語の合法則性に対する洞察を獲得するのである。

また、語論や統語論、意味論の中で、彼らは新しい言語手段に出会い、それによって、自身の受容力や口頭および文字による表現可能性を広げるのである。

	<p>生徒が書いたテキスト、他のテキスト、話された言葉から出発して、文法現象を取り上げ、考察し、消化する。 文法と正書法の結び合わせ。</p>
<p>統語論</p> <p>重文 複合文</p> <p>句読法： 重文と複合文の場合のコンマ</p>	<p>構造、置換、拡張された文の修得。</p>
<p>品詞</p> <p>接続詞</p>	<p>重文と複合文の中で応用。</p>
<p>意味論 (語義論)</p> <p>表現手段としての慣用句</p> <p>広告の言語表現手段</p> <p>方言一標準語</p>	<p>差異のメルクマール。</p> <p>方言の社会的・歴史的意味。</p>

2. 4. 第 8 学年

学習領域 1 : 話すこと、書くこと、演技すること (60 時間)

生徒たちは説明すること、述べること、相手に関連づけて話したり書いたりすることを練習し、そうして生活に沿った課題設定や職業志向的な課題設定を克服する。また、単純な事態を主に口頭で解説し、そのために論拠の収集・整理・重要度の判定を行う技術を利用する。さらに彼らは、演技の中で、現実に関連した諸状況をテストし、それによって自己の価値観を強め、他者との交わりにおける確かさをより一層獲得するのである。

生徒たちは広く自立的に、目標をもって、多様な仕方、自身の間違えやす

い点に向かって、正書法を練習する。彼らは、繰り返し応用することによって、新たに獲得した語彙、とりわけ専門用語や外来語を書くことを確かなものとし、基本的な正書法規則に関する知識を深める。

情報を入力し、収集し、整理し、引き渡す技術は、研究発表やテキスト集を作成するために利用される。また、文字を用いる課題に対して、コンピューターがどんどん投入される。

学習活動内容	指導上の留意点
<p>“OiB”を指摘するこの学習領域の内容は、ドイツ語科、経済理論／情報科、家庭科／被服科、工学科が協同で計画し、形成し、遂行する教科交差的単元“職業領域における指針”の構成要素である。</p>	
<p>口頭および文字で説明したり、述べたりする。</p>	
<p>職場説明</p>	<p>企業照会、企業実習と社会実習。 → 【経済理論／情報科、単元1：職業領域における指針、第3段階】</p>
<p>履歴書</p>	<p>テキストや表形式で作成。</p>
<p>願書</p>	<p>個人的な志願の理由、外見の形式の意味。</p>
<p>報告</p>	<p>自由時間や学校の出来事。 実習報告。 → 【経済理論／情報科、家庭科、工学科、単元1：職業領域における指針、第8段階】</p>
<p>追加：事実報告</p>	<p>正確な観察。 情報源を明らかにする。 体系的に情報を集め、整理する。</p>
<p>研究発表</p>	<p>補助手段：事典、専門書、見出し語カード。 → 歴史／社会科、地理科、新教・カトリック宗教科、物理科、生物／化学科、倫理科</p>
<p>テキスト要約</p>	<p>中心思想、重要な筋の部分、中心的な観点。</p>
<p>追加：内容報告</p>	<p>形成のメルクマール。</p>
<p>解説の手ほどき</p>	<p>⇒ 2 生徒の日常の出来事や個人的な経験領域から取り出したテーマ。 単純な事態を主に口頭で解説する；見出し語風に論拠を集める。</p>

追加：文字を用いた形式で論証したり、解説したりする。

[自由に書く]

他者との言語的交わり
事実や相手に関連づけて話したり書いたりする

独自の見解を運び入れる

他者の見解を顧慮する

発言の内容の観点と関連の観点を認識する

お互いに礼儀正しく交流する

[インタビュー]
[アンケート]

模擬演技

ディスカッション

論証

正書法：
正書法の一つひとつの現象を体系的に取り扱う
専門用語と外来語
重文／複合文の場合の句読法

規則の定式化と応用
大文字書きと小文字書き
句読法

- 【生物／化学科，単元 1：
刺激感受と体内の情報伝達】
- 【歴史／社会科，単元 1：
情報源；新聞とテレビ】

読者の手紙，抗議文，文字による態度決定，分類の補助。

[自分自身のために書く。
気分や感情を表現する。
体験や造形芸術，音楽，自然による示唆。
日記，手紙。
自由な形成の形式。
採点はしない]

主張を提示し，理由づけ，説明を加える。

対立意見を取り上げ，解明し，それを引き受けるか，あるいはそれに反駁する。

追認する，慰める，挑発する。

苦情を申し立てる，批判を練習する。

[雇用関係の照会，仕事仲間や世話役，職業安定所の代表者との話し合い。
→ “O i B”

アクチュアルなきっかけ。
カセットテープレコーダーの投入]

就職面接や異議をめぐる話し合い，企業における苦情の個別的な形式，職業指導員との話し合い。
→ “O i B”

⇒ 2 解説の事前準備としても。

⇒ 4

⇒ 2

⇒ 4

文法（意味論）に結びつける。

<p>書くきっかけから出発するような、誤りの分析や目標を設定した練習</p>	<p>願書や履歴書、文通に対する正書法、文字イメージ、形成の意味。</p>
<p>学習の技術、練習形式、解決の補助手段 テキストを作成したり、誤りを訂正したり、自立的な練習をするための辞書の利用。</p>	<p>参考書類、専門書、Duden 入門、自由学習、循環練習。 重点、省略、複数形形成。 コンピューター：正書法テスト・プログラム、正書法トレーニング・プログラム。</p>
<p>ディクテーションに従ったテキスト (160 語)</p>	<p>授業で用いたテキストや語。</p>
<p>口頭および文字による論述のための作業技術 コンピューターの投入： テキストを書き、形成する</p>	<p>手紙、履歴書、願書、取材、研究発表、アンケート。 正書法テスト・プログラム。 正書法トレーニング・プログラム。</p>
<p>取材</p>	
<p>構成</p>	<p>見出し語を概観可能な形で論述、取材、テキスト。</p>
<p>表出形式</p>	<p>テキストと図表的要素。</p>

学習領域 2：文学と他のテキスト (35 時間)

生徒たちは自立的な学習を高めることによって、より難しいテキストの命題と内容上の問題を、主に行為—生産的に解明する。彼らはそのときに呈示された生活現実と対置することによって独自の生活現実を理解し、それに対する態度を決定する。また、様々な文学的テキストに特別な美的表出の仕方に出会い、他のメディアにおける表出や作用との差異を経験する。それによって、文学に対する関心が促されるが、その際、自由時間形成の手段としての本の意味がとりわけ強調され、学校外の読書経験が、授業に関係づけられる。職業の指針や生活実践的な利用と関連して、専門的テキストからの情報の取り出しや、ジャーナリズムのテキストとの格闘に重点が置かれる。

<p>散文テキスト 逸話／寓話／物語</p>	<p>犯罪物語、ショートストーリー、たとえ話も。</p>
<p>追加：逸話、寓話、物語のメルクマール</p>	<p>形式と内容のより深い考察。</p>
<p>詩／バラード</p>	

青年文学	個人の生活形成や生活克服に対する本の意味。
大衆文学	形式と意味。
専門的テキスト	
法律テキスト	⇒4 契約, 法律, 規定, 条例, 政令。
ジャーナリズムのテキスト	⇒2 報道, コメント。
実用書	様々な関心領域の実用書に出会う。
<p>この学習領域に対する任意の時間の少なくとも半分は、読み物リストに上げられた文学のために用いられる。1年間に、最低1冊の青年文学ないしは実用書が読まれるべきである。</p>	
テキストでの学習 テキストの解明	第一印象, テキストに対して問いを立てる, 比較的長いテキストを矛盾なく再現する, 重要な情報をテキストから取り出す。
内容上の問題	登場人物の特徴, 行為の動機, 行動の仕方, 生活環境, 心的葛藤。
形式と内容の相応	筋の構造と展開, 語の選択, 文構造, 言葉のイメージ。 詩の場合には, 押韻や韻律, リズム。
読解力向上の練習	迅速に, ざっと目を通すような読み。目につきやすい語。
詩の暗唱	

学習領域3：言語考察と文法 〈15時間〉

生徒たちは、さらなる文法上の形式を区別することを学び、言語を応用する際にその機能を認識し、学んだものを新たな言語連関の中で使用する。それによって彼らは、言語の合法則性に対する洞察を獲得するのである。

また、語論や統語論、意味論の中で、彼らは新しい言語手段に出会い、それによって、自身の受容力や口頭および文字による表現可能性を広げるのである。

生徒が書いたテキスト、他のテキスト、話された言葉から出発して、文法現象を取り上げ、考察し、消化する。
文法と正書法の結び合わせ。

統語論	
重文 複合文	構造，置換，拡張された文の修得。
直接話法と間接話法	変形練習，テキストを要約する際に応用。
句読法： 重文／複合文の場合のコンマ	
品詞	⇒ 2
動詞： 能動態 受動態	ジャーナリズムのテキストで学習。 使用された形式それぞれに異なる視程。 → 英語科，文法
接続法	間接話法の場合に応用。
追加：直説法 接続法	機能。 性能を対比的に。
意味論（語義論）	
外来語 専門用語の概念	起源 工業技術，産業，商業，交通。
追加：メタファー	文学的テキストにおける機能。

2. 5. 第9学年

学習領域1：話すこと，書くこと，演技すること 〈60時間〉

生徒たちは説明すること，述べること，解説することを練習し，独自の立場を根拠づけ，自己批判的に自分の行動を反省し，他者の見解に対する理解を発展させる。また，独自の見解を主張し，他者の立場に対してオープンであり，それを把握し，考慮に入れることを学ぶ。事態や態度決定，理由づけも，適切な仕方で表現される。

生徒たちは話し合いやディスカッションの中で，事実即して，相手に関連づけて自らを表現すること，その際，事実や事態，テキストに関して獲得した知識を，目標をもって利用することを学ぶ。

彼らは演技の中で，現実に関連した諸状況をテストし，それによって自己の価値観を強め，他者との交わりにおける確かさを獲得する。

彼らはオリジナル演技を構想し，そのテキストや戯曲テキストを様々な演技形式へ創造的かつ個別的に転換する。

生徒たちは広く自立的に、目標をもって、多様な仕方で、自身の間違いやすい点に向かって、正書法を練習する。彼らは繰り返し応用することによって、新たに獲得した語彙、とりわけ専門用語や外来語を書くことを確かなものとし、基本的な正書法規則に関する知識を深める。

情報を入力し、体系的に収集し、構成して呈示し、引き渡す技術は、口頭および文字による論述形式に利用される。それに際して、コンピューターが適当な場面で投入される。

学習活動内容	指導上の留意点
口頭および文字による論述と理由づけ	
特徴づけ	メルクマールや個人的固有性に着目して、人物を正確に説明する。
テキストの要約／再現	お手本に従ってテキストを手短かに再現する様々な形式。
追加：文字による内容報告	メルクマールと形式。
議事録（授業記録）	物理科や化学科，労働—経済—工業技術からの試み，生徒自治会の会議。
追加：短い研究発表	
解説	⇒ 1 直線的形式と論争形式，収集，評価と利害得失論拠の対置，手紙によっても個人的な意思表示。 → 【地理科，単元1：ヨーロッパ連合】 → 【生物／化学科，単元2：水・空気の汚染と浄化】
追加：直線的解説と論争的解説の対置	個人的な評価とその理由を述べる。
テキストに対する態度決定	根拠のある価値づけ。
テキスト分析の端緒	テキスト説明の手ほどき。
[自由に書く]	[自分自身のために書く。 気分や感情を表現する。 体験や造形芸術，音楽，自然による示唆。 日記，手紙。 自由な形成の形式。 採点はしない]
他者との言語的交わり	⇒ 1
事実や相手に関連づけて話したり書いたりする：	⇒ 2

[ディスカッション]	[一つの問題の様々な視程を述べ、根拠づける]
[円卓会議]	[オープンな話し合いの状況、パートナーシップに則った意見の交換]
模擬演技	就職面接や異議をめぐる話し合い、職業指導員との話し合い、オープンにあるいは固定的に役割を分けて役割演技。
お互いに礼儀正しく交流する	敬称形。
舞台風の演技	対話。
正書法： 正書法の一つひとつの現象を体系的に取り扱う	
専門用語と外来語	文法（意味論）に結びつける。 複数形形成。
重要な正書法現象と正書法規則を反復する	願書や履歴書、文通一特に会社、官庁、個人に宛てた一に対する正書法、文字イメージ、形成の意味。
略記・要約	
書くきっかけから出発するような、誤りの分析や目標を設定した練習	
学習の技術、練習形式、解決の補助手段 テキストを作成したり、誤りを訂正したり、自立的な練習をするための辞書の利用	自立的な練習、自由学習 参考書類、専門書、Duden の利用。 コンピューター：正書法テスト・プログラム。
ディクテーションに従ったテキスト（160語）	授業で用いたテキストや語。
口頭および文字による論述のための作業技術 コンピューターの投入： テキストを書き、形成し、テキストの構成要素を混合する	手紙、履歴書、願書、取材、構成、研究発表、議事録；分類語彙表を利用。
構成	取材したものの配置。
対置	事実、論拠、評価。
意義／重要度に従った配列	分類原理に出会う。 → 【生物／化学科，单元2： 水・空気の汚染と浄化】

標準的なお手本に従った外見の
形成

学習領域2：文学と他のテキスト 〈30 時間〉

生徒たちは自立的な学習を高めることによって、より難しいテキストの命題と内容上の問題を、主に行為一生産的に解明する。彼らはその時どきに呈示された生活現実と対置することによって独自の生活現実を理解し、それに対する態度を理由を示しながら決定する。また、様々な文学的テキストに特別な美的表出の仕方に出会い、他のメディアにおける表出や作用との差異を経験する。それによって、文学に対する関心が促されるが、その際、個人的あるいは社会的な問題や発達を論述することに対するその意味の点で、本そのものが際立たされ、学校外の読書経験が、授業に関係づけられる。職業の指針や生活実践的な利用と関連して、専門的テキストからの情報の取り出しや、ジャーナリズムのテキストとの格闘は、さらに引き続き、高い位置価値を有する。

散文テキスト ショートストーリー たとえ話／直喩 追加：短編小説、たとえ話とそのメルクマール	⇒ 2	暦物語、逸話、物語も。
詩 バラード	⇒ 5	物語詩。
戯曲的テキスト		舞台風の対話、ミニ芝居、演劇、放送劇、映画化（劇場訪問）。
青年文学	⇒ 1	個人の生活形成や生活克服に対する本の意味。 → 【歴史／社会科，歴史単元 3： 国家社会主義統治下のドイツ】 → 【歴史／社会科，歴史単元 4：第二次 世界大戦と国家社会主義統治の終焉】
専門的テキスト 法律テキスト		契約，法律，政令。 → 【歴史／社会科，社会単元 1：議会制 民主主義としてのドイツ連邦共和国】 → 【歴史／社会科，歴史単元 3： 国家社会主義統治下のドイツ】 → 【経済理論／情報科，単元 3： 市場の動向における青年】

実用書

この学習領域に対する任意の時間の少なくとも半分は、読み物リストに上げられた文学のために用いられる。1年間に、最低1冊の青年文学ないしは実用書が読まれるべきである。

テキストでの学習
テキストの解明

内容上の問題

形式と内容の相応

読解力向上の練習

詩の暗唱

様々な関心領域の実用書に出会う。

第一印象、テキストに対して問いを立てる、比較的長いテキストを矛盾なく再現する、重要な情報をテキストから取り出す。

登場人物の特徴、行為の動機、行動の仕方、生活環境、心的葛藤。

筋の構造と展開。
語の選択、文構造、言葉のイメージ。
詩の場合には、押韻や韻律、リズム。

学習領域3：言語考察と文法 〈10時間〉

生徒たちは、さらなる文法上の形式を区別することを学び、言語を応用する際にその機能を認識し、学んだものを新たな言語連関の中で使用する。それによって彼らは、言語の合法則性に対する洞察を獲得するのである。

また、語論や統語論、意味論の中で、彼らは新しい言語手段に出会う。また、新しい専門用語や外来語が広がりのある空間を受け取り、それによって彼らの受容力や口頭および文字による表現可能性が高められるのである。

統語論

品詞

意味論（語義論）
外来語
専門用語の概念

生徒が書いたテキスト、他のテキスト、話された言葉から出発して、文法現象を取り上げ、考察し、消化する。
文法と正書法の結び合わせ。

もっぱら定着と深める応用。
句読法。

反復。

起源。
工業技術、産業、交通、商業、スポーツ、自由時間。

2. 6. 第10学年

学習領域1：話すことと書くこと 〈80時間〉

生徒たちは事態や諸問題を解説することと深く格闘し、独自の立場を根拠づけ、自己批判的に自分の行動を反省し、他者の見解に対する理解を発展させる。また、独自の見解を主張し、他者の立場に対してオープンであり、それを把握し、考慮に入れることを学ぶ。事態や態度決定、理由づけも、適切な仕方で表現される。そして、テキストを解明・説明し、テキストに対して独自の意見を形成し、それを発表する。話し合いやディスカッションの中で、事実にして、相手に関連づけて自らを表現すること、その際、事実や事態、テキストに関して獲得した知識を、目的をもって使用することも学ぶ。

情報を入手し、体系的に収集し、構成して呈示し、引き渡す技術は、口頭および文字による論述形式に利用される。それに際して、コンピューターが適当な場面で投入される。

生徒たちは広く自立的に、目標をもって、多様な仕方で、自身の間違いやすい点に向かって、正書法を練習する。彼らは繰り返し応用することによって、新たに獲得した語彙、とりわけ専門用語や外来語を書くことを確かなものとし、基本的な正書法規則に関する知識を深める。そして、規則に応じて書くことの職業生活や私生活に対する意味を認識する。

学習活動内容	指導上の留意点
口頭および文字による論述と理由づけ	
解説： 直線的論述 論争的論述	アクチュアルなテーマ（環境）の客観的論述。 テーマの問題範囲の要約。 個人的な意思表示（テーゼ、アンチテーゼ、ジンテーゼ）。
研究発表	作品全体についての比較的長い研究発表。 試験に関連したテーマ。 10学年の試験科目。
ディスカッション	生徒の生活領域や経験領域から。 アクチュアルなきっかけ。
テキストを研究する： 内容の理解と再現	テキストの主題，問題，モチーフを論述。
形式の説明	語りの状況，語りの時／語られた時，登場

形式と内容の関係の研究

テキストの解釈

[自由に書く]

正書法：
繰り返して間違える箇所や間違いの
分析から出発する多様な練習

専門用語と外来語

誤りやすい正書法のケース

学習の技術、練習形式、解決の補
助手段

テキストを作成したり、誤りを
訂正したり、自立的な練習をす
るための辞書の利用

ディクテーションに従ったテキス
ト (180 語)

口頭および文字による論述のため
の作業技術

構成

コンピューター投入：
分量のあるテキストを書き、形
成し、テキストの構成要素を混
合する

人物、人物の位置関係、筋、構造、ジャン
ルの属性。

テキストの機能と作用、言語手段。

テキストの中に含まれている見解や価値づ
けに対する個人的な態度決定 (転移)。

[自分自身のために書く。
気分や感情を表現する。
体験や造形芸術、音楽、自然による示唆。
日記、手紙。
自由な形成の形式。
採点はしない]

願書や履歴書、文通一特に会社、官庁、個
人に宛てた一に対する正書法、文字イメ
ジ、形成の意味。

文法 (意味論) に結びつける。複数形形成。

練習を授業の中にくるみ込む。

参考書類、専門書。

Duden の利用。

コンピューター：正書法テスト・プログラ
ム。

授業で用いたテキストや語。

→ 地理科、歴史/社会科、生物/化学科、
物理科、新教・カトリック宗教科

願書、手紙、大量発送する手紙。

研究発表、生徒新聞。

分類語彙表を利用。

→ 【経済理論/情報科、単元 3：

コンピューターを用いた経済的課題設定
の論述と解決】

学習領域 2 : 文学と他のテキスト (35 時間)

生徒たちはより意識的かつ自立的に文学的テキストと格闘する。その際彼らは、自分自身の行為および他者の行為を省察するために、現代や過去における人間の行動の仕方に関して獲得した理解を利用する。また、彼らはそれぞれのエポックがどのようにそれに特別な表現可能性を創造するのかを認識し、内容とその時代じだいの表出形式の連関に対するより深い接近の道筋を発見する。彼らは実用的テキストから、彼らにとって重要な情報を取り出し、事実にして、それらを利用する。さらにそれを超えて、決定状況における評価と意見形成に対する基準を獲得し、そうして、それを独自の目的のために利用することができるのである。

散文テキスト

ショートストーリー

長編小説

戯曲的テキスト

詩とバラード

伝記

情報を与えるテキストと論証する
テキスト

政治演説

専門的テキストと法律テキスト

この学習領域に対する任意の時間の少なくとも半分は、読み物リストに上げられた文学のために用いられる。1年間に、最低1冊の青年文学ないしは実用書が読まれるべきである。

テキストでの学習

内容を把握する

構造を認識する

テキストを評価する

言葉を研究する

寓話、たとえ話、物語、短編小説も。

舞台風の対話、ミニ芝居、演劇、放送劇。

演説手段、演説意図、演説の効果。

法律テキスト、契約テキスト。

→ 【経済理論／情報科、単元 2 :
エコロジーとエコノミーの緊張領域における経済】

テキストの表出の仕方と表出の意図を認識する。

テキスト中で論じられている思想を、その帰結と論理的配分の点に関して論述する。

テキストのメルクマール

テキストの時代史的背景も。

詩の暗唱

学習領域 3：言語考察と文法 〈15 時間〉

生徒たちは、さらなる文法上の形式を区別することを学び、言語を応用する際にその機能を認識し、学んだものを新たな言語連関の中で使用する。それによって彼らは、言語の合法則性に対する洞察を獲得するのである。

また、語論や統語論、意味論の中で、彼らは新しい言語手段に出会う。また、新しい専門用語や外来語が広がりのある空間を受け取り、それによって彼らの受容力や口頭および文字による表現可能性が高められるのである。

	<p>生徒が書いたテキスト、他のテキスト、話された言葉から出発して、文法現象を取り上げ、考察し、消化する。 文法と正書法の結び合わせ。</p>
シンタクス	主文と文肢文。 文の成分の特別な連関。 作用における文規範の多様性。
句読法	反復。
言語の変化とその意味	意味の狭まり、意味の拡張、意味の改善、 意味の改悪。
言語の発達	方言の発生、専門用語。

3. 参考資料

3. 1. 読み物リスト

このリストは、ハウプトシューレの国語科教育に義務づけられているテキストの種類を記載し、またそれを超えて、読み物としてふさわしい作家および作品を挙げるものである。学習領域“文学と他のテキスト”に対する任意の時間の少なくとも半分は、この読み物リストに揚げられている作家ないしはテキストのために用いられる。

またこれ以外にも、国語科の教育—陶冶任務の範囲内で、別の作品が授業の

ために選択され得るが、その際、適切な例を手がかりに、同時代の文学と世界文学作品に出会うべきである。

第5／6学年

1. 詩：

叙情詩

クラウディウス、アイヒェンドルフ、ゲーテ、ハックス、レーナウ、メリケ、モルゲンシュテルン、シラー、シュトルム、ウーラント。

物語詩

ベルゲングリューン、ブレヒト、フォンターネ、ケストナー、リンゲルナッツ、ロス、ザックス、シラー。

2. 童話（メルヘン）

アンデルセン、グリム、ハウフ、プロイスラー、他の民族の童話。

3. 寓話

イソップ、ヘルダー、キルシュテン、ラ・フォンテーヌ、レッシング、ルター、シュヌレ、サーバー。

4. 伝説

ゲルマンの英雄伝説、ギリシャの伝説、ローマの伝説、郷土の伝説。

5. 聖人伝

6. 物語

ビクセル：子ども向けの物語、ビュルガー：『ミュンヒハウゼン物語』、エーブナー—エッシェンバッハ：『クラムバンブリ』、フォースター：『ロビンソン死なないで』、ハウフ：『隊商』、シュトルム：『人形使いのポーレ』、オイレンシュピーゲル物語、シルダ村住人の物語。

7. 青年文学

アッシュャー—ピンクホフ：『星の子どもたち』、デフォー：『ロビンソン・クルーソー』、ディケンズ『オリバー・トウィスト』、エンデ：『モモ』、ヘルトリング：『それはヒルベルだった』、キップリング：『ジャングル・ブック』、リンドグレン：『盗賊の娘ロンヤ』、ロンドン：『狼の血』、マール：『リップルの夢』、マーク・トゥエイン：『トム・ソーヤの冒険』、マックス・v・d・グリューン：『アーバンククロコダイル』、ネストリンガー：『でか鼻の王様なんてくそくらえ』、オデール：『青いイルカの島』、プロイスラー：『クラバット』、ルトガース・v・d・レフ：『子どもキャラバン』、スティーヴンソン：『宝島』、スウィフト：『ガリバー旅行記』、ティム：『競走豚ルーディ・リュッセル』、ヴェルフエル：『灰色の野原と緑色の野原』。

第7～9学年

1. 詩：

叙情詩

バッハマン、ベン、ボルヒェルト、フォン・ブレンターノ、クラウディウス、アイヒ、アイヒェンドルフ、ゲーテ、ヘッセ、カシュニッツ、レーナウ、メーリケ、リルケ、シラー、シュトルム、トラークル、ウーラント。

物語詩／バラード

ベルゲングリューン、ブレヒト、フォン・ドロステーヒュルスホフ、フォンターネ、ゲーテ、ハイネ、ケストナー、C.F.マイアー、モルゲンシュテルン、リンゲルナッツ、ロス、ザックス、シラー。

2. 暦物語

ブレヒト、ヘーベル。

3. 笑話／逸話

ゴットヘルフ、ヘーベル、ケストナー、クライスト、トゥホルスキー。

4. 物語／短編小説

ブレヒト：『アウグスブルクの白墨の輪』、ゴットヘルフ：『黒い蜘蛛』、ハウフ：『冷たい心臓』、ケストナー：『動物会議』、ケラー：『馬子にも衣装』、レンツ：『ズーライケン風流譚』、C.F.マイアー：『護符』、メーリケ：『シュトゥットガルトのしわくちや親爺』、ラーベ：『黒いガレー船』、ツヴァイク：『ジュネーブ湖畔のエピソード』。

5. 青年文学と長編小説

アンデルシュ：『ザンジバルあるいは最後の理由』、ストー：『トムじいやの小屋』、ベトケ：『湿地歩行者の歌』、フェールマン：『狼たちの一年』、グリメルスハウゼン：『阿呆物語』（簡略版）、ケストナー：『動物会議』、ケル：『ヒトラーがウサギを盗んだとき』、A.クッチュ：『何も贈られない』、マルタン：『覆われた過去』、メルヴィル：『モービー・ディック（白鯨）』、モルトン：『波』、ノアク：『エスカレーターを下に』、ネストリンガー：『コフキコガネが飛んだ』、ペストウム：『ガゼルの時』、ペーターセン：『私の言葉には朝のためのコトバはない』、ワイルド：『カンタヴィレの幽霊』。

6. 寓話／たとえ話

イソップ、ブレヒト、ヘーベル、キルシュテン、ラ・フォンテーヌ、レッシング、ルター、シュヌレ、サーバー。

7. 犯罪物語

ドイル：『シャーロック・ホームズ』、デュレンマット：『嫌疑』、『裁判官と死刑執行人』。

8. ショートストーリー

アイヒンガー、ベンダー、ビクセル、ベル、ボルヒェルト、ブリッテイング、ヘミングウェイ、カシュニッツ、クーゼンベルク、ランゲッサー、レンツ、シュヌレ、ヴァイゼンボルン。

9. 戯曲的テキスト

ボルヒェルト：『戸の外』、フリッシュ：『ビーダーマンと放火者』、『アンドーラ』、ゲーテ：『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』、ハウプトマン：『ビーバーの毛皮』、クライスト：『こわれがめ』、シラー：『ウイリアム・テル』、ツックマイアー：『悪魔の将軍』、『ケペニックの大尉』。

10. 放送劇

アンデルシュ：『ひき逃げ』、アイヒ：『エル・クウエードに従うな』、『夢』、ホーエルシエルマン：『エスペランザ号』、ヴィツケルト：『学級作文』。

第10学年

1. 詩とバラード

バッハマン、ベン、ブレヒト、ドーミン、アイヒ、エンツェンスベルガー、ゲーテ、グラス、グリューフィウス、ヘーベル、ハイネ、ヘッセ、ホフマンスタール、ケストナー、カシュニッツ、プレヴェール（方言）、リルケ、シラー、トラークル、トゥホルスキー、ヴァルター・フォン・デア・フォーゲルヴァイデ。

2. たとえ話、寓話、風刺

3. ショートストーリー

アイヒンガー、ビクセル、ベル、ボルヒェルト、ブリッテイング、アイヒ、フッセンエッガー、ヘミングウェイ、カシュニッツ、クーゼンベルク、ランゲッサー、レンツ、リンザー、シュヌレ、ヴォーマン。

4. 物語／短編小説

17世紀から19世紀

シャミッソー：『ペーター・シュレミールの不思議な物語』、ドロステ・ヒュルスホフ：『ユダヤ人のブナ』、フォンターネ：『ナシの木の下で』、ゴットヘルフ：『黒い蜘蛛』、グリメルスハウゼン：『阿呆物語』（選）、ハウプトマン：『踏切警手ティール』、ホフマン：『スキューデリー嬢』、ケラー：『射撃祭』、クライスト：『チリの地震』、『ロカルノのこじき女』、マイアー：『グスタフ・アドルフの小姓』、メーリケ：『旅の日のモーツアルト』、ポー：『大渦巻きに吞まれて』、シラー：『失われた榮譽の犯罪者』、シュトルム：『白馬の騎者』。

20 世紀

ベル：彼の物語、アンネ・フランク：『アンネの日記』、ヘミングウェイ：『老人と海』、クーネルト：『静寂の中の葬儀』、レンツ：『ズーライケン風流譚』（選）、ゼーガース：『現実の青』。

5. 長編小説

アンデルシュ：『ザンジバルあるいは最後の理由』、ベル：『道化師の告白』、デーブリーン：『ベルリン・アレクサンダー広場』（抜粋）、デュレンマツト：『裁判官と死刑執行人』、『嫌疑』、ファラダ：『小さな男、で次は？』、フリッシュ：『ホモ・ファーベル』、ヘルトリング：『さめきらぬ恋い』、ヘッセ：『車輪の下』、マックス・v・d・グリーン：『火事の広がり』、レマルク：『西部戦線異状なし』。

6. 戯曲／放送劇

アンデルシュ『ひき逃げ』、ベル：『ノックの合図』、ボルヒェルト：『戸の外』、ブレヒト：『コーカサスの白墨の輪』、『肝っ玉おっ母と子どもたち』、ドレヴィッツ：『ラビリンス』、デュレンマツト：『貴婦人故郷に帰る』、『物理学者』、アイヒ：『ヴィテルボの娘たち』、フリッシュ：『ビーダーマンと放火者』、ゲーテ：『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』、グリルパルツァー：『欺く者に災いあれ』、ハウプトマン：『織工たち』、『ビーバーの毛皮』、クライスト：『こわれがめ』、レッシング：『ミンナ・フォン・バルンヘルム』、モリエール：『気で病む男』、『タルチュフ』、シラー：『群盗』、『ウイリアム・テル』、ヴィッケルト：『学級作文』、ワイルダー：『わが町』、ツックマイアー：『ケペニックの大尉』、『悪魔の將軍』。

7. 情報を与えるテキストと論証的テキスト

8. 青年文学

O.F.ラング：『蝶のもとへ』、ペストウム：『ガゼルの時』、シンガー：『ワルシャワの幼年時代』、ルクシャナ・スミス：『世界の間のスミトラ』。

3. 2. 教科交差的テーマ一覧

学 年	教 科 交 差 的 テ ー マ
第5学年	テーマ1：ともに生活し、ともに学び合う（*） テーマ2：男性／女性としての人間存在（*） テーマ3：子どもは自分の世界を探知し、それを守る

	テーマ4：態度と動き テーマ5：農業の営みを探求する
第6学年	テーマ1：場面（シーン）形成（*） テーマ2：自然と自由時間：森は何人の人間に耐えられるか？ テーマ3：過去の物語（説話、伝説、物語）（*） テーマ4：外国人―他者（*） テーマ5：学ぶことを学ぶ（*）
第7学年	テーマ1：友情―パートナー―性的特質 テーマ2：地域の、あるいは学校の出来事の資料（*） テーマ3：メディアと自由時間（*） テーマ4：スポーツと健康 テーマ5：譲歩すること―自分を押し通すこと（*）
第8学年	テーマ1：中毒の予防 テーマ2：新聞―一つのマスメディア（*） テーマ3：一つの世界の中で生きる テーマ4：青年と権利（*） テーマ5：栄養と健康
第9学年	テーマ1：平和を創造し、維持する（*） テーマ2：統一途中のヨーロッパ（*） テーマ3：アメリカ合衆国 テーマ4：家族の中で生活する テーマ5：文化エポックのメルクマール（*）
第10学年	テーマ1：窒素化合物による環境問題 テーマ2：電子工学の理論と実践 テーマ3：エネルギーと環境

表中の（*）は、国語科の参加を意味する。